

『愛に囚われし心の書』の挿絵について

——ウィーン版とパリ版の比較——

田 中 久美子

はじめに

現在、ウィーンのオーストリア国立図書館に所蔵されている『愛に囚われし心の書』(*Le Livre du Coeur d'Amours épris*, Cod. 2597)の挿絵は、15世紀フランス絵画を代表する作品であるばかりでなく、西欧の写本芸術において最後の頂点に位置するものである。この『愛に囚われし心の書』は、15世紀フランスにおいて芸術活動の中心地のひとつであるアンジュー公ルネの宮廷でルネ王自身によって1457年に著され、ブルボン公ジャン二世に献じられたものである。原本はすでに失われており、ウィーン国立図書館に所蔵されている写本はこの原本をもとに1460年代に制作されたものと考えられている。¹

『愛に囚われし心の書』は、抽象的概念が擬人化されて物語を展開する寓意物語である。寓意物語は、13世紀に『薔薇物語』が登場して以来、中世の文学において支配的な形式であり、ルネ王のこの物語もその系譜に連なる。ここでは、「愛」に憑かれた「心」が「欲望」^{クール}を従者に連れ、「恥」^{デジール}と「恐怖」、「拒絶」によって囚われの身となった意中の女「甘き愛」^{ドゥース・メルシ}を救出するために波乱万丈の旅に出る。「心」たち一行は、囚われの「甘き愛」に近づきながらも闘いに敗れ、傷ついて愛の病院に身を潜めるところで夢から覚めるという筋立てである。

ウィーンの『愛に囚われし心の書』は、ルネ王の宮廷に仕え、王のその他の著作にも挿絵を描いたことで知られる画家バルテルミー・デックによって16点の挿絵が施されている。残念ながら、この16点を最後に挿絵は何らかの理由によって未完成のまま終わっており、挿絵が施される予定であった箇所は空白のままになっている。現存する16点の挿絵はいずれもみごとに

空間表現、直接の観察に基づく自然の描写、とりわけ闇のなかの灯火や曙光、夕暮れや闇の表現など光の変化に対する繊細な感受性が注目され、当時ヨーロッパにおいて新たな芸術様式を展開していたイタリア、フランドルの影響を消化したうえで、南仏の強い光を表現する独自の様式をうちたてたものとして美術史上高い評価を受けている。

ところで、『愛に囚われし心の書』は、ウィーンに所蔵されている写本のほかに、15世紀に制作された写本が5点存在している。² そのなかの一点であるパリの国立図書館に所蔵されている『愛に囚われし心の書』(Paris, Ms. fr. 24399) は、ウィーン版よりも遅い1480年頃の作品とされているが、³ 完成した状態にある。このパリ写本のなかに《「運命の泉」の碑文を読む「心」》の挿絵がある(図4b)。この場面は、夜も更けて旅につかれた「心」と「欲望」は、暗闇のなかに泉を見つけ、喉の渇きに耐えきれずに水を飲んでしまい、嵐に遭遇するのだが、翌日、明るい陽光のもとで、「心」は、碑に刻まれた銘文を読むことで、嵐の原因を知る、といういきさつを表わしたものである。同じ場面はウィーン版にも挿入されており(図4b)、両者の挿絵を比べてみるならば、画面左手の槍の立てかけられたポプラの木の下で肘を枕に横たわる「欲望」、その背後で草を食む馬、画面右手に描かれた「運命の泉」の前でうつむき、腰の高さに左手を挙げて一心に碑文を読む「心」のたずまい、そして背後に描かれている昇ったばかりの低く柔らかな光を放つ太陽など、構図といい細部描写といい、この二点の挿絵はほぼ同一と言ってもよい。この二点の挿絵の類似は偶然の一致ではありえない。このことから両者が密接な関係にあることはこれまで指摘されてきた。見事な様式を見せるウィーン版の挿絵は原本を反映したもので、制作年代の遅いパリ版がウィーン版の挿絵をコピーしたものと見る見解が提出される一方で、パリ版とウィーン版においてこの二点の挿絵がこれほどの類似を見せるものの、その他の多くの挿絵はずいぶん様相を異にしていることから、様式的に旧式な挿絵を含むパリ版が原本の忠実な写しとする意見も提出されてきた。いずれにしても三者の関係は十分に論じられているとは言い難い。そこで本稿の目的は、この両写本の関係にあらためて注目し、未完成におわったウィーン版の『愛の囚われし心の書』の完成像を想定すると同時に、今は失われてし

まったオリジナルとの関係を考察しようとするものである。

ウィーン版『愛に囚われし心の書』の挿絵の全体像を仮想する

まず、両者の関係を明らかにする足がかりとなるのは、ウィーン版に実際に描かれた挿絵をパリ版のものと比較することである。以下の表は両写本の挿絵場面とそこに書かれたテキストを比較したものである。

ウィーン版	パリ版
1. Fol. 2r. 王の夢 Une nuyt en ce mois passé—	1. Fol. 1r. 眠る王 Une nuyt en ce mois passé—
2. Fol. 5v. 「希望」との出会い (図 1 a) (挿絵の下) Dame, pour Dieu que or vous plaise,	2. Fol. 5r. 「希望」との出会い (図 1 b) Dame, pour Dieu que or vous plaise,
3. Fol. 9r. 「嫉妬」との出会い (図 2 a) (挿絵の上) —et parla a la nayne en telle maniere:	3. Fol. 8v. 「嫉妬」との出会い (図 2 b) —et parla a la nayne en telle maniere:
4. Fol. 12v. 「長き待ちこがれし森」での雨後 (図 3 a) —a lui et lui dist en telle maniere	4. Fol. 12v. 「 <u>運命の泉</u> 」の水を飲む「 <u>心</u> 」と「 <u>欲望</u> 」、そして雨後 (図 3 b) —a lui et lui dist en telle maniere
5. Fol. 15r. 「 <u>運命の泉</u> 」の碑文を読む「 <u>心</u> 」(図 4 a) Droit cy devant soubz ce perron	5. Fol. 15r. 「 <u>運命の泉</u> 」の碑文を読む「 <u>心</u> 」(図 4 b) (挿絵の上) —lesquelles il leut, qui disorient ainsi 次ページ Droit cy devant soubz ce perron
6. Fol. 17r. 「深い思慮の谷」での「 <u>憂鬱</u> 」との出会い (図 5 a) (挿絵の上) —mais parla a elle et dist ainsi	6. Fol. 17v. 「 <u>深い思慮の谷</u> 」で「 <u>憂鬱</u> 」のもとへ向かう (図 5 b) (挿絵の下) Comment le Cueur parle a Melencolie et lui— 前ページ —mais parla a elle et dist ainsi
7. Fol. 18v. 「危険な渡り橋」での「 <u>心配</u> 」との出会い (挿絵の下) Comment le Cueur et Desir trouverent—	7. Fol. 19r. 「 <u>危険な渡り橋</u> 」で「 <u>心</u> 」と「 <u>心配</u> 」との戦い Comment le Cueur et Desir trouverent—
8. Fol. 21v. 「 <u>心</u> 」と「 <u>心配</u> 」の戦闘直後 (図 6 a) Comment Esperance parle au Cueur et a Desir	8. Fol. 22r. 「 <u>心</u> 」と「 <u>心配</u> 」の戦闘直後 (図 6 b) Comment le Cueur et Desir trouverent—
9. Fol. 25v. 「落胆の丘」で「 <u>怒り</u> 」の館へ向かう (図 7 a) (挿絵の上) —si leur dest en telle maniere	9. Fol. 26v. 「 <u>落胆の丘</u> 」で「 <u>怒り</u> 」の館へ向かう (図 7 b) (挿絵の下) Icy parle Courroux aux duel compaignons— 前ページ —si leur dest en telle maniere

10. Fol. 26v. 「心」と「怒り」の戦闘 (挿絵の上) qui que se just ne l'amoit pas (挿絵の下) Icy parle l'actuer et dit ainsi que	10. Fol. 27v. 「心」と「怒り」の戦闘 (挿絵の上) qui que se just ne l'amoit pas (挿絵の下) Icy parle l'actuer et dit ainsi que
11. Fol. 31v. 「慎ましき懇願」との出会い (図8a) Icy parle Disir a Humble Requeste—	11. Fol. 33r. 「慎ましき懇願」との出会い (図8b) Icy parle Disir a Humble Requeste—
12. Fol. 33r. 「名誉」との出会い (図9a) —si mist le genoil a terre et le salua en lui disant	12. Fol. 34v. 「名誉」とで出会い (図9b) —si mist le genoil a terre et le salua en lui disant
13. Fol. 46v. 「悲しき溜息」の庵への到着 (図10a) Icy parle l'acteur et dit ainsi que	13. Fol. 49r. 「悲しき溜息」の庵への到着 (図10b) Icy parle l'acteur et dit ainsi que
14. Fol. 47v. 隠者の館への到着 (図11a) (挿絵の上) —leur respondit en telle maniere	14. Fol. 50v. 隠者の館への到着 (図11b) Comment l'ermite respond au Cueur et a ses — 前ページ —leur respondit en telle maniere
15. Fol. 51v. 「愛の島」への船出 (図12a) Icy parle l'acteur et dit ainsi que	15. Fol. 54v. 「愛の島」への船出 (図12b) Icy parle l'acteur et dit ainsi que
16. Fol. 55r. 岩礁での「社交」と「友情」との出 会い (図13a) Icy parle l'acteur et dit ainsi que	16. Fol. 58r. 岩礁での「社交」と「友情」との出 会いと歓待 (図13b) Icy parle l'acteur et dit ainsi que

この表から、パリ版の挿絵のなかで下線を引いてあるものだけがウィーン版のテーマと多少の相違があるものの（これについては後で触れる）、その他の挿絵については挿絵のテーマもテキストに挿入される箇所も全く同じであることが確認できる。

ウィーン版の空白ページのテキストとパリ版の挿絵の施されたページの照合

上記の比較を考慮するならば、ウィーン版の空白ページのテキストとパリ版の挿絵が挿入されたページのテキストを比較し、両者が同じであるならば、挿絵についてもパリ版と同じテーマがウィーン版にも描かれるはずであったと想定できる。以下の表は、ウィーン版の空白の箇所を抽出し、そこに書かれたテキストをパリ版の挿絵の施された箇所とを比較したものである。⁴

ウィーン版 空白箇所	パリ版 挿絵箇所
1. Fol. 58r.	対応する箇所に挿絵なし。
2. Fol. 58v.	対応する箇所に挿絵なし。

『愛に囚われし心の書』の挿絵について——ウィーン版とパリ版の比較——

- | | |
|---|--|
| <p>3. Fol. 62r.
Icy parle Desir et dit en telle maniere</p> <p>4. Fol. 66r. Jules Cesar (ユリウス・カエサル)</p> | <p>17. Fol. 64v. 愛の病院を訪れる (図14)
Icy parle Desir et dit en telle maniere</p> <p>18. Fol. 68v. Jules Cezar (ユリウス・カエサル)
(図15)</p> <p>19. Fol. 69v. Augustes Cezar (アウグストゥス)</p> <p>20. Fol. 70v. Neron (ネロ)</p> <p>21. Fol. 71r. Marc Anthoine (マルクス・アントニウス)</p> <p>22. Fol. 72r. David (ダヴィデ)</p> <p>23. Fol. 73r. Theseo (テセウス)</p> <p>24. Fol. 73v. Henée troyen アイネイアス</p> <p>25. Fol. 74v. Archiles (アキレウス)</p> <p>26. Fol. 75r. Hercules (ヘラクレス)</p> <p>27. Fol. 76r. Paris (パリス)</p> <p>28. Fol. 76v. Troylle (トロイイロス)</p> <p>29. Fol. 77v. Deomedes (ディオメデス)</p> <p>30. Fol. 78r. Domophontes (ギリシア王)</p> <p>31. Fol. 79r. Lancelot (ランスロ)</p> <p>32. Fol. 79v. Tristan (トリスタン)</p> <p>33. Fol. 80v. Ponthus (ポントス)
(Arthur duc de Bretagneブルターニュ公)
挿絵なし</p> <p>34. Fol. 82r. Loÿs duc d'Orlean (オルレアン公ルイ)</p> <p>35. Fol. 82v. Jehan duc de Berry (ベリー公ジャン)</p> <p>36. Fol. 83v. Loÿs duc de Bourbon (ブルボン公ルイ)</p> <p>37. Fol. 84v. Phelippes duc de Bourgongne (ブルゴーニュ公フィリップ)</p> <p>38. Fol. 85v. Charles d'Orléans (シャルル・ドルレアン)</p> <p>39. Fol. 86r. Charles duc de Boubon (ブルボン公シャルル)</p> <p>40. Fol. 87r. René d'Anjou (アンジュー公ルネ)</p> <p>41. Fol. 88r. Loÿs de France dauphin de Viennoys (フランス王ルイXI)</p> <p>42. Fol. 88v. Charles d'Anjou (ダンジュー公シャルル)</p> <p>43. Fol. 89v. Gascon (Gaston) de Foix (ガストン・ド・フォア)</p> <p>44. Fol. 90r. Loÿs de Luxembourg (ルイ・ド・ルクサンブール)</p> <p>45. Fol. 91r. Loÿs de Beauvau (ルイ・ド・ボーヴォ) (図16)
ここに限って当人の紋章を描くのではなく、すべての紋章を一堂に会して描いている。</p> |
|---|--|

5. Fol. 79r. Guillaume de Machault (ギヨーム・ド・マシヨール)	対応する箇所には挿絵なし
6. Fol. 90r. Tel estoit la fa ç on du beau cahstel—	46. Fol. 103r. 「喜び」の城を訪れる (図17) Tel estoit la fa ç on du beau cahster—
7. Fol. 92r. Les dessusdictes choses pendoient soubz—	47. Fol. 105r. 「喜び」の城のなかにて (図18) Les dessusdictes choses pendoient soubz—
8. Fol. 97r. Comment Bel Accueil presente le Cuer a Amours	48. Fol. 109v. 「接待」が「愛」に一行を紹介 (図19) Comment Bel Accueil presente le Cueur a Amours
<u>以下10点は愛の部屋でのタビスリーの描写</u>	
9. Fol. 100r. Oyseuse, Jeunesse 「青春」と伴う「怠惰」	49. Fol. 113r. Oyseuse, Jeunesse (図20) 「青春」を伴う「怠惰」
10. Fol. 100v. Regard, Beau Semblant 「眼差し」と「良き外見」	50. Fol. 113v. Regard, Beau Semblant (図21) 「眼差し」と「良き外見」
11. Fol. 101r. Plaisir, Foulcuider 「盲目の思い」を伴う「喜び」	51. Fol. 114r. Plaisir (図22) 「盲目の思い」を伴う「喜び」
12. Fol. 101v. Ardent Desir, Vaine Esperance 「空虚な希望」に従う「燃え上がる欲望」	52. Fol. 114v. Ardent Desir, Vaine Esperance (図23) 「空虚な希望」に従う「燃え上がる欲望」
13. Fol. 102r. Souvenir, Pensee 「思い出」と「思考」	53. Fol. 115r. Souvenir, Pensee 「思い出」と「思考」 (図24)
14. Fol. 102v. Cuiderie, Abus 「うぬぼれ」と「虚妄」	54. Fol. 115v. Cuiderie, Abus 「うぬぼれ」と「虚妄」 (図25)
15. Fol. 103r. Voullente, Pouvre Pouvoir 「意志」と「貧しき力」	55. Fol. 116r. Voullenté, Pouvre Pouvoir (図26) 「意志」と「貧しき力」
16. Fol. 103v. Lyesse, Deuil 「歓喜」と「悲嘆」	56. Fol. 116v. Ljéssé, Deuil 「歓喜」と「悲嘆」 (図27)
17. Fol. 104r. Folie, Entendement 「狂気」と「常識」	57. Fol. 117r. Folie, Entendement 「狂気」と「常識」 (図28)
18. Fol. 104v. Raison 「理性」	58. Fol. 117v. Raison 「理性」 (図29)
19. Fol. 105v. (最後の言葉) —et dist a Amours ainsi	59. Fol. 118v. 「愛」、ウエヌス、「接待」と一行 (図30) —et dist a Amours ainsi
<u>以下8点はウエヌスのタビスリーの描写</u>	
20. Fol. 108r. Plaisant Maintien, Gente Contenance 「心地よき物腰」と「上品な態度」	60. Fol. 121r. Plaisant Maintien, Gente Contenance 「心地よき物腰」と「上品な態度」 (図31)
21. Fol. 108v. Jeunesse, Beaulte 「青春」と「美」	61. Fol. 121v. Jeunessè, Beaulté 「青春」と「美」 (図32)
22. Fol. 109r. Deport Joyeux, Gracieux Recueil 「喜ばしき振る舞い」と「優雅なもてなし」	62. Fol. 122r. Depart Joyeux, Gracieux Recueil 「喜ばしき振る舞い」と「優雅なもてなし」 (図33)
23. Fol. 109v. Chiere Amiable, Courtoise Maniere 「親切なもてなし」と「礼儀正しきもてなし」	63. Fol. 122v. Chiere Amiable, Courtoise Maniere) 「親切なもてなし」と「礼儀正しきもてなし」 (図34)
24. Fol. 110r. Foul Cuidier, Esperance 「狂信」と「希望」	64. Fol. 123r. Foul Cuidier, Esperance (図35) 「狂信」と「希望」
25. Fol. 110v. Dueil, Tristesse 「悲嘆」と「悲しみ」	65. Fol. 123v. Dueil, Tristesse 「悲嘆」と「悲しみ」 (図36)
26. Fol. 111r. Rogier Bon Temps 「良き時間」	66. Fol. 124r. Rogier Bon Temps 「良き時間」 (図37)

『愛に囚われし心の書』の挿絵について——ウィーン版とパリ版の比較——

27. Fol. 111v. le viellart 「老人」	67. Fol. 124v. le viellart 「老人」(図38)
28. Fol. 112v.	対応する箇所挿絵ない
29. Fol. 115r. Comment Pitie et Bel Accueil vindrent——	68. Fol. 126r. 「反逆」の館への到着 (図39) Comment Pitie et Bel Accueil vindrent——
30. Fol. 118v. Icy dit Bel Accueil au Cuer les nons des gens ——	69. Fol. 129r. 「甘き愛」との出会い (図40) Icy dit Bel Accueil au Cuer les nons des gens ——
31. Fol. 125v. Adoncques d'amgoesse etde dueil	70. Fol. 136v. 著者像 (図41) Adoncques d'amgoesse etde dueil

上記の表によると、ウィーン版写本には31点の空白が残されている。最初のフォリオ58r、58v、79 r および112rの空白部についてはパリ版に対応する挿絵はないが、残りの27点のうち26点の空白部分について、その前あるいは後ろのテキストはパリ版の挿絵が施されている箇所と全く同一である。このことからウィーン版のフォリオ62rおよびフォリオ90r以降の空白部分の27のテーマを想定することができる（パリ版の17 (図14) および46 (図17) から70 (図41) にあたる挿絵がそれである）。問題なのは、パリ版に施された18～45までの28点の挿絵とウィーン版との関係である。この部分は一行が訪れた愛の病院での出来事を物語る個所だが、挿絵の有無に関してウィーン版とパリ版では大いに異なる。ウィーン版では二か所だけ挿絵が施されることになっており (Fol. 66r, 79r)、パリ版では28枚もの挿絵が施されている。テキストを参照すると、この部分は病院内の墓地に案内された一行が墓地の入口のアーチに掛けられた先人たちの紋章を眺める場面だが、テキストは次のように語る「彼らは墓地の入り口にやってきた。その入り口は並外れた高さで幅があった……そこには豊かで大きく、美しい紋章が掛けられて、その上にはモットーや名、あるいは彼らがここにやってきた旅の理由が書いてあった」⁹⁾とあり、次いで、ユリウス・カエサルから29人の人物の紋章がどのようなものであったのかが一人一人語られてゆく。挿絵にはそのうちの27人の紋章が描かれている（例としてユリウス・カエサルの紋章の部分挙げた。図15）。ところが紋章を語る最後のフォリオ91だけが個人の紋章ではなく、石棺が置かれた墓地の入口のアーチに掛けられたすべての紋章を眺める一行の様子を表わした挿絵になっている(図16)。一方、ウィーン版の挿絵の構想は、一人一人の紋章を描く計画はなかったようで、最初に挙げられたユリウス・カエサルのフォリオにだけ挿絵が挿入される予定で

あったことがわかる。これまですべてのウィーン版の挿絵はパリ版に対応しているという点を考慮するならば、ここにはカエサルの紋章が描かれていたと考えることもできるが、むしろここには例外的にパリ版の図16のようなすべての紋章を描いた挿絵の方がふさわしいようにも思われる。アーチ上にすべての紋章が掛けられた情景を語るテキストの記述とも一致しているからである。

以上のようにパリ版と比較することによって、対応する挿絵のない4点を除いて27点の描かれることのなかったウィーン版の挿絵がどのようなものかを想定することができる。それらは、「愛の病院」の訪問とそのなかの墓地の様子を表わしたものが2点（ウィーン版Fol. 62r、66r、パリ版の対応する挿絵は図14、16）、「喜びの城」の訪問とそのなかでの出来事を表わす4点（ウィーン版Fol. 90r、92r、97r、105v、パリ版の対応する挿絵は図17、18、19、30）、「喜びの城」のなかの「愛の部屋」のタピスリーの情景を表わす10点（ウィーン版Fol. 100r-104r、パリ版の対応する挿絵は図20-29）、ウェヌスのタピスリーの情景を表わす8点（ウィーン版Fol. 108r-111v、パリ版の対応する挿絵は図31-38）、「反逆の館」での出来事を表わす2点（ウィーン版Fol. 115r、118v、パリ版の対応する挿絵は図39、40）、そして最後の著者像（ウィーン版Fol. 125v、パリ版の対応する挿絵は図41）で締めくくられていた。このようにして、空白にされたままのウィーン版の27枚の挿絵を対応するパリ版の挿絵から想定することで、ウィーン版の構想全体が浮かび上がってくる。

両写本の比較から浮かび上がる問題点

ウィーン版およびパリ版の《「運命の泉」の碑文を読む「心」》の場面がほぼ同一であることはすでに述べた（図4 a、b）。これまで指摘されてきたように、年代の遅いパリ版はウィーン版をもとに制作したのだろうか。他のフォリオについても両者の密接な関係を示唆する例を挙げるならば、《「慎ましき懇願」との出会い》の場面（図8 a、b）の構図も偶然の一致とは考えにくいし、《「心」と「心配」の戦闘直後》の橋を後にする「心配」の茂みに

半ば隠れた姿など細い点についても酷似している表現を見出すことができる(図6 a, b)。しかしその一方で両者には大きな相違点もある。まず、『嫉妬』との出会い』での「嫉妬」の描写については、ウィーン版では「嫉妬」の足は人間のようだが、パリ版では水かきがついている(図2 a, b)。テキストには水かきがついていたと書かれている。⁶『「心」と「心配」の戦闘直後』の挿絵でも(図6 a, b)、橋から立ち去る「心配」の後ろ姿は似ていたが、前景場面はずいぶんと異なる。ウィーン版では岸にたどり着いた「心」を「希望」が引き揚げているが、パリ版では橋桁につかまる「心」を「希望」が救い出している。テキストの記述はパリ版の描写に一致している。またパリ版では馬上の若い男女が加わっているが、これもテキストの記述に即している。また、パリ版の『「希望」との出会い』のなかでは碑はテントのなかにあるが、ウィーン版ではテントの外に置かれている(図1 a, b)。テキストにははっきりとテントのなかにあると書かれている。⁷年代の遅いパリ版の方がテキストに忠実なのである。パリ版はウィーン版をテキストに沿うように修正したのだろうか。

この疑問に答えるために、今ひとたび『「運命の泉」の碑を読む「心」』に戻ってみよう(図4 a, b)。これまで類似点ばかりが強調されてきたが、1996年にE. ケーニツヒは、今まで誰も言及することのなかった両者の違いを指摘している。⁸ポプラの木の下に横たわる「欲望」の後ろで草を食む馬の描写がウィーン版では赤茶色だが、パリ版では心のエンブレムで飾られた馬衣をつけた「心」の馬になっているという点である。テキストにはどちらの馬かを特定する記述はないが、直前の場面でこの位置に置かれているのは「心」の馬である。またテキストでは「心」が自分の馬について夢見ている記述が長々と続いており、テキストを読んできた読者は物語の進行上「心」の馬を念頭に置いている。つまり、パリ版に描かれた馬の方がテキストに沿っていると言える。

上述した数々の両者の差異はいずれも、ウィーン版がテキストの記述から逸脱した結果から生じたものである。パリ版は詳細な描写という点ではウィーン版には到底及ばないものの、テキストから逸脱することなくテキストに忠実である。このことは、パリ版がウィーン版に基づきながらテキスト

に沿うようにそれを修正したと考えるよりも、両者が同じ手本から派生していると考えの方が自然なように思われる。つまり、パリ版は原本に忠実に従いながら原本を再現し、ウィーン版はテキストを逸脱するような変更を加えたということになる。

原本を仮想する

上記の考察を踏まえるならば、『「運命の泉」の碑文を読む「心」』の場面はすでに原本に描かれていたことになる。ここでパリ版の挿絵全体を眺めてみるならば、まず何よりもパリ版に特徴的なのは、連続的に物語を叙述する方法で、物語の進行に合わせて連続したいくつもの出来事が一画面に表わされている。その端的な例が、フォリオ12vの『「運命の泉」の水を飲む「心」と「欲望」、そして雨後』である(図3b)。ここには画面の向かって右に、かわるがわる「運命の泉」の水を飲む「心」と「欲望」の姿が描かれており、画面の左には、その結果嵐に遭遇した二人が疲れはててポプラの木の下で眠るという事の顛末が描かれている。時間を異にする二つの出来事が同一画面のなかに表わされており、「心」も「欲望」も同一画面に二回登場する。こうした表現形式は、次のフォリオの『「運命の泉」の碑文を読む「心」』が一つの画面に単一の出来事を表わしているのとは対照的である(図4b)。同じ表現形式は『岩礁での「社交」と「友情」との出会いと歓待』(図13b)にも見られる。これほど顕著ではないにしても、『「希望」との出会い』のような場面でも、背景に旅を続ける「心」と「希望」と姿が繰り返されている(図1b)。この手法はほかに『「嫉妬」との出会い』(図2b)、『「落胆の丘」で「怒り」の館に向かう』(図7b)、『「名誉」との出会い』(図9b)、『「隠者の館への到着」』(図11b)、『「愛の島」への船出』(図12b)にも見られ、前半部を支配する挿絵の表現形式と言える。そう考えるならば、『「運命の泉」の碑文を読む「心」』の挿絵は、その他の挿絵とは相いれないように思われるかもしれない。

ところが、後半部分に目を向けるならば、事態は一変する。同じ登場人物が繰り返される連続的な叙述様式は一点を除いて姿を消す。その一点が『「喜

び」の城を訪れる》場面だが（図17）、たとえば前半部の《隠者の館への到着》（図11b）場面と比較してみると、連続物語叙述様式をとっているものの、私たち読者／観者の視点に大きな違いがあることに気がつく。《隠者の館への到着》の場面では、私たちは背景遠くから一向が館に近づく様子を眺めているのに対して、「喜び」の城への到着》では、城に近づく一行三人の頭部だけが画面の一番手前にその後頭部だけを見せるようにして描かれている。そのために、私たちは遠くから向かってくる一行を反対側から眺めているのではなく、一行は私たちの先頭に立って私たちとともに眼前で起っている出来事を眺めているかのような印象を引き起こす。つまり、手前で後ろ向きにたつ人物によって登場人物は私たちの側にいることになり、彼らと私たちの視線が重なり、私たちの視線が画面のなかにとり込まれるという、前半部とは全く次元を異にするイリュージョンが生み出されているのである。後半部の挿絵の多くはこれと同じ造形原理に基づいている。「愛の病院」を訪れた一行が墓地に案内され、そこで壁にかかった紋章を眺める場面（図16）、「喜び」の城で窮窿につり下げられた事物——サムソンの髪を挟んだ鍔、アリストテレスを連想させる馬鞍、サルダナパールとかかわりのある糸巻棒、ソロモンとかかわる偶像、ヘラクレスにまつわる織物、いずれも愛の顛末を物語る人物のアトリビュートがぶら下げられている——を見上げる一行（図18）も同じ手法で描かれている。次いで、愛の部屋に通された一行が、その部屋に掲げられたタピスリーを眺める場面がくるが、いずれも一行は私たちに背中を向けて、指さす「心」の説明に耳を傾けながらタピスリーに向かっている（図20～29）。タピスリーに表わされているのは愛にまつわるさまざまな特性の擬人像が繰り広げる物語であり、一種の画中画である。タピスリーの前に立つ一行の眼差しと私たち読者（観者）の眼差しが重なり、タピスリーのなかの擬人像を眺めるという重層的なイリュージョンの世界がここにも出現する。次に向かうウェヌスの部屋では8枚のタピスリーだけが、訪れた擬人像一行の介在なしに目の前に繰り広げられる（図31～38）。パリ版には様式的には均一ながらも、異なる画面の構成原理および造形原理が混在しているのである。

ここで再びウィーン版に戻ってみよう。《「希望」との出会い》の場面（図

1 a) で、テキストに反して、碑をわざわざ外に出すという逸脱を犯したのは理由があるように思われる。あえて碑を外に置くことで、そして、そこに書かれた文字を「欲望」に指差せることで、私たちにその碑を読むように促しているかのようである。《「運命の泉」の石碑を読む「心」》(図4 a) も、《「憂鬱」との出会い》(図5 a) や《「落胆の丘」で「怒り」の館へ向かう》(図7 a) も解読可能な文字がパネルに書かれ、その前に佇む人物や、背中を向ける人物の介在によって私たちはパネルを読むように促される。⁹ なかでも顕著な作例が、《「悲しき溜息」の庵への到着》の場面である(図10a)。本来この場面は「悲痛な溜息」と呼ばれる老人との間でエピソードが展開されるのだが、その老人は全く画面に登場せず、一行だけが庵の前に佇み、戸口の上に書かれた言葉を読むだけの奇妙な場面である。これから物語に登場する主要な人物さえも表わされず、挿絵にするにはあまりにも変哲のない瞬間である。しかしながら、挿絵が提示しなかったのは戸口の上のパネルなのである。背中をこちらに向けてパネルを指差す「欲望」の視線が私たちの視線と重なり、「欲望」が介在となって、私たちの視線はパネルに向かう。私たちは画中のこのパネルを実際に読むことができるのだが、パネルにはこれから起こる出来事が示唆されている。このパネルもパリ版に見られたタピスリーと同じ画中画の役割を果たしている。物語の登場人物たちと私たち読者／観者が重なり合い、画中画を眺めるといふまさしくパリ版の後半部において展開する挿絵の重層的なイリュージョンと共通する手法がここにも用いられている。

ま と め

失われた原本にはすでに二つの異なる表現形式が混在していた。旧来の連続的な物語叙述様式と、読者の視点を画中に引きずり込むような重層的なイリュージョンを内包した表現である。後者の高度なイリュージョンはウィーン版に見られる方法ときわめて似ている。だとすれば、原本には少なくとも二人の画家が参与しており、後者の挿絵はウィーン版を手掛けた画家バルテルミー・デックが手掛けたのではなかろうか。そう考えるならば、パリ版に

もウィーン版にも見られた《「運命の泉」の碑文を読む「心」》がすでに原本に挿入されていたという想定も成立する。バルテルミー・デックはウィーン版に挿絵を描くにあたって、原本に改変を加え、挿絵を単なるテキストの補助的役割に終わらせるのではなく、積極的に読者を引き込むような新たな力を与えるべく一層高度なイリュージョンを挿絵のなかに創出した。ウィーン版の描かれることのなかった挿絵には、絵画世界のなかに画中画を組み込み、そこに登場人物とともに眼差しを向ける私たち読者の視線を取り込んだ重層的なイリュージョンの世界が展開されていたに違いない。もしウィーン版の挿絵が完成されていたならば、どれほど巧妙で私たちを幻惑するような世界が描出されていたことかと、現存するウィーン版の挿絵とパリ版の挿絵を眺めながら想像をたくましくするばかりである。

注

- 1 当写本については、2007年の千葉大学『人文研究』において、挿絵とテキストの関係から考察した論考を掲載している。『愛に囚われし心の書』の挿絵について—挿絵の果たす役割—『人文研究』36号、201～225頁。
- 2 パリの国立図書館に三点 (Ms.fr. 24399, Ms.fr. 1425, Ms.fr. 1509)、パリ、アルセナル図書館に一点 (2984)、ローマのヴァチカン図書館に一点 (Cod. Reg. 1629) である。そのうち、パリの国立図書館に所蔵されているMs.fr. 24399は完成しており、70点の挿絵が施されている。また同じくパリ国立図書館のMs.fr. 1509には24点の挿絵が施されている。
- 3 挿絵に登場する人物たちが身につけている衣装からこうした年代が推定されている。
- 4 ウィーン版の空白部分の割り出し、およびテキストの抽出にあたっては、テキストも含めたファクシミリは刊行されていないため、以下の文献に依っている。O. Smital and E. Winkler, *Livre du Cœur d'amours esprits*, Einleitung und Textband zur Faksimile-Ausgabe, Vienna, 1926. ここではウィーン版の全テキストをそのフォリオ番号も含め掲載している。Eberhard König, *Das Liebentbrannte Herz der Wiener Codex und der Maler Barthelémy d'Eyck*, Graz/Austria, 1996.
- 5 …ilz arriverent devant le portal du cymetiere, lequel portal estoit hault,

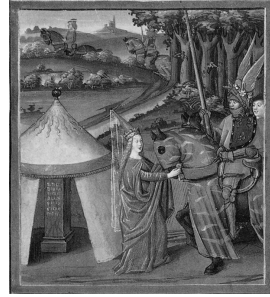
grant et large a merveilles…soubz laquelle estoient contre le mur clouez blazons assez riches, grans et beaux, et les devises de pluseurs de ceulz la a qui estoient les dessusdiz blazons avec les noms, tiltres et seigneuries et la cause pourquoy ils estoient la passez et venuz en voyage, René d'Anjou, *Le livre du cuer d' amours esprits*, Paris, Union Générale d' Editions, 1980, p. 120–121.

- 6 Les piedz avoit larges et patuz comme ung cyne, *ibid.*, p. 36.
- 7 A l'encontre duquel paveillon avoit, plus dedans que dehors, soubz la couverture dudit, une colombe de pierre de jaspre — (下線筆者)、*ibid.*, p. 30.
- 8 König, *ibid.*, p. 164.
- 9 後ろ向きの人物や進行役として登場人物、判読可能なパネルの導入など、ウィーン版挿絵の特徴については以下の拙論で考察を行った。『『愛に囚われし心の書』の挿絵について—挿絵における身振りと叙述—』、『15, 16世紀における北方美術の相互関連と特性—叙述性の問題をめぐって—』、平成9—11年度科学研究費補助金 [基礎研究C(1)] 研究報告書、平成12年、39から54頁。

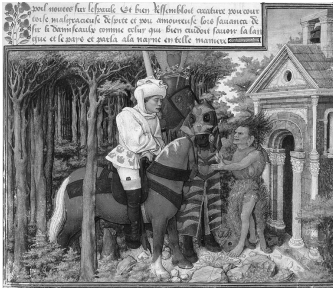
『愛に囚われし心の書』の挿絵について——ウィーン版とパリ版の比較——



1 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 5v. 「希望」との出会い



1 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 5. 「希望」との出会い



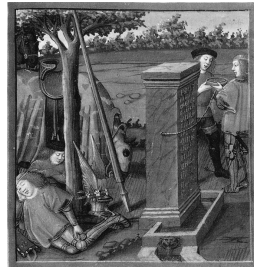
2 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 9r. 「嫉妬」との出会い



2 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 8v. 「嫉妬」との出会い



3 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 12v. 「長き待ちこがれし森」での雨後



3 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 12v. 「運命の泉」の水を飲む「心」と「欲望」、そして雨後



4 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 15r. 「運命の泉」の碑文を読む「心」



4 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 15r. 「運命の泉」の碑文を読む「心」



5 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 17r. 「深い思慮の谷」での「憂鬱」との出会い



5 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 17v. 「深い思慮の谷」で「憂鬱」のもとへ向かう



6 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 21v. 「心」と「心配」の戦闘直後



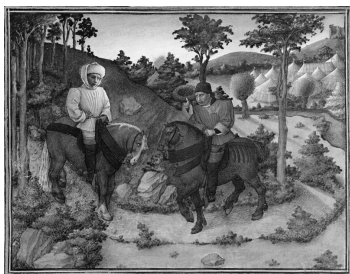
6 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 22r. 「心」と「心配」の戦闘直後



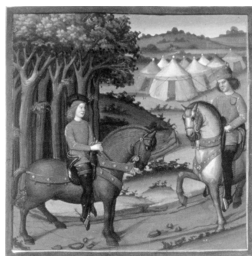
7 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 25v. 「落胆の丘」で「怒り」の館へ向かう



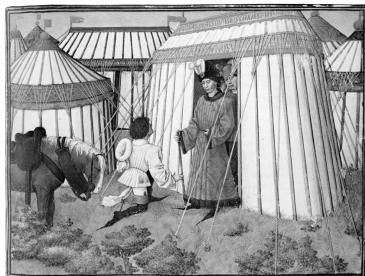
7 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 26v. 「落胆の丘」で「怒り」の館へ向かう



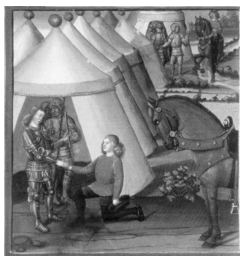
8 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 31v. 「慎ましき懇願」との出会い



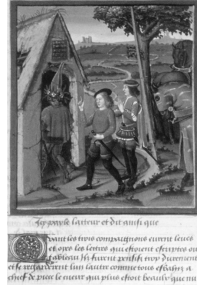
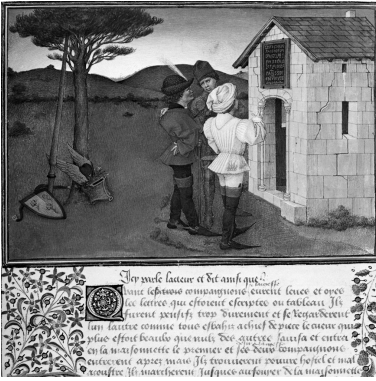
8 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 33r. 「慎ましき懇願」との出会い



9 a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, Fol. 33r. 「名誉」との出会い



9 b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 34v. 「名誉」とでの出会い





13a. ウィーン、オーストリア国立図書館、Cod. 2597, For 55r. 岩礁での「社交」と「友情」との出会い



13b. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 58r. 岩礁での「社交」と「友情」との出会いと歓待



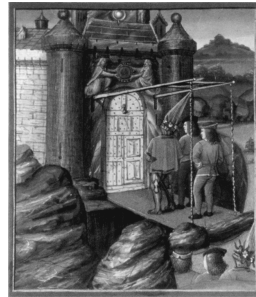
14. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 64v. 愛の病院を訪れる



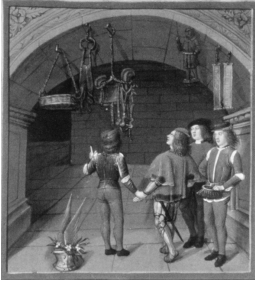
15. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 68v. Jules Cezar(ユリウス・カエサル)



16. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 91r. 紋章を見上げる一行



17. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 103r. 「喜び」の城を訪れる



18. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 105r. 「喜び」の城のなかにて



19. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 109v. 「歓待」が「愛」に一行を紹介



20. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 113r. 「青春」を伴う「怠惰」



21. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 113v. 「眼差し」と「良き外見」



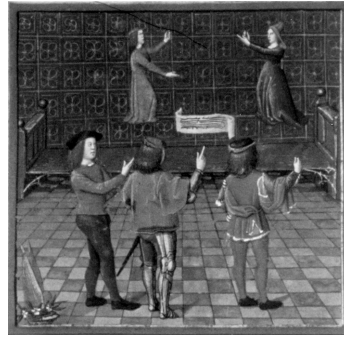
22. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 114r. 「盲目の思い」を伴う「喜び」



23. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 114v. 「空虚な希望」に従う「燃え上がる欲望」



24. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 115r. 「思い出」と「思考」



25. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 115v. 「うぬぼれ」と「虚妄」



26. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 116r. 「意志」と「貧しき力」



27. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 116v. 「歓喜」と「悲嘆」



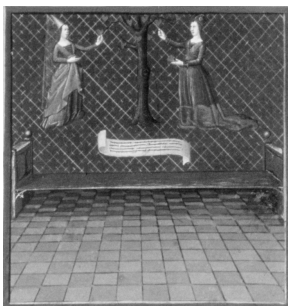
28. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 117r. 「狂気」と「常識」



29. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 117v. 「理性」



30. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 118v. 「愛」、ウェヌス、「歓待」と一行



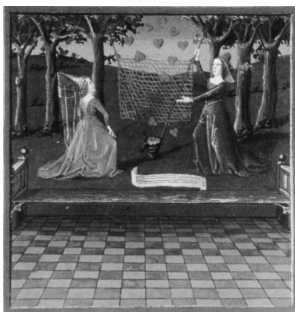
31. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 121r. 「心地よき物腰」と「上品な態度」



32. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 121v. 「青春」と「美」



33. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 122r. 「喜ばしき振る舞い」と「優雅なもてなし」



34. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 122v. 「親切なもてなし」と「礼儀正しきもてなし」



35. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 123r. 「狂信」と「希望」



36. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 123v. 「悲嘆」と「悲しみ」



37. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 124r. 「良き時間」



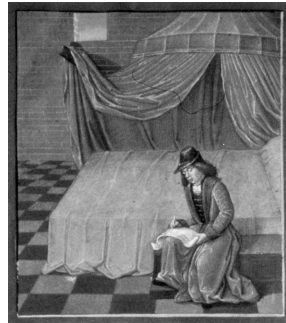
38. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 124v. 「老人」



39. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 126r. 「反逆」の館への到着



40. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 129r. 「甘き愛」との出会い



41. パリ国立図書館、Ms.fr. 24399, Fol. 136v. 著者像